



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学び舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和 2年2月27日
No.10
文責：校長 戸敷二郎

新型コロナウイルス(COVID-19)への対応・再度

このことについて先日2月20日付けで各ご家庭に注意喚起のお願い文書を出したところですが、現在も収束に向かう状況は見られていません。国はこの1, 2週間が感染拡大を阻止できるかどうかの大切な期間であると警鐘を鳴らしています。

九州内でも隣接する熊本県内での感染者が発生しています。買い物や仕事などで生活圏を共有する五ヶ瀬町は、最大限の注意が必要であると考えます。先日の文書でお願いした通り、予防策は通常の風邪やインフルエンザ予防と同じ対応で十分に効果があるとされています。通常よりも更に意識した『手洗い・うがい』等の励行をご家族全体でお願いいたします。

合わせて、各個人の免疫力を高めるためにも『早寝・早起き・朝大豆』にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。これまで何回もお伝えしていますように**睡眠ホルモンのメラトニンには高い免疫力**があります。しっかり食べてしっかりと眠っておくことがいつも大事です。

早寝・早起き・朝大豆



2年生「立志の集い」を開催



2月21日（金）に本年度の『立志の集い』を開催しました。14歳になった2年生が**「これから生き方についての志を立てる」**機会にするために毎年この時期に行っています。

集いの**第1部**では代表発表の甲斐翔大くんが「五ヶ瀬や西臼杵をもっと暮らしやすい場所にするため、JAの仕事に就きたい。」また、田中美妃南さんが「今まで学校で教えてきたことを将来の小学生に伝えるために、小学校教諭を目指したい。」などの発表を行いました。それ以外の生徒達も漢字一文字に込めた想いをそれぞれに発表してくれました。

第1部では『立志の記念』として教育振興会会长の那須政彦様からボールペンと記念の色紙入れ用の額縁を、五ヶ瀬町から記念の急須を新緑会の坂本建吾様からそれぞれ贈呈していただきました。記念品を見るたびに、今日の想いを確認してほしいと思います。

第2部の講話では三ヶ所中学校卒業の飯干涼様（西臼杵消防本部）、鈴木大和様（五ヶ瀬町役場）、本田司様（鞍岡保育園）の3名の大先輩方から後輩達に向けた熱いメッセージをいただきました。先輩方からは、自分が今の職業を選択するに至った経緯や、中学校・高等学校・大学などでの想い出、いかに五ヶ瀬が素晴らしい故郷であるなどをそれぞれにわかりやすくお話ししていただきました。

生徒達の作文（決意文）にも「いざれは五ヶ瀬に帰って町の役に立ちたい！」といった想いがたくさん綴られており、現役で町づくり・地域づくりに取り組んでいる先輩方の想いと重なり、将来の五ヶ瀬を頼もしく思える時間でした。そして何よりも印象に残ったのは先輩方が共通して**「家族や地域に育ててもらったことを忘れないで生きてほしい！」**と述べられたことです。転勤族の子供で決まった故郷がない私にとって、五ヶ瀬という美しい故郷をもった先輩・後輩達の姿がうらやましく思える瞬間でした。

2年生の皆さんには残り1年余りの中学校生活を通して、決意した夢の実現に向けて一歩ずつ着実に力をつけながら五ヶ瀬中学校を牽引していってほしいと切に願っています。

「社会力」という言葉

～自分は世の中を変えられる存在だと認識すること～

今回のテーマは少し難しい話になるかもしれません…

「社会力」？？あまり耳慣れない言葉ではないでしょうか。私自身もこの言葉を知ったのは7年ほど前のことです。筑波大名誉教授（執筆当時）の門脇厚司氏の書いた『子どもの社会力』という本に出会った時でした。以下、本文からこの言葉の注釈の部分を抜き出してみます。この本は1999年（平成11年）初版です。



『はじめに』より

（前略）ところで、本書で私は、社会的動物ないし社会的存在たるにふさわしい人間の資質能力を「社会力」と呼ぶことにした。いまや、心理学の専門用語になっている感のある「社会性」なる用語が、既にある社会に個人として適応する側面に重きをおいた概念であるのに対し、本書で用いる社会力には、1つの社会を作りその社会を維持し運営していく力という意味を込めている。

このような用語を作り用いようとしたのは、わが国の若い人々に欠けているのは社会への適応能力というより、自らの意志で社会を作っていく意欲とその社会を維持し発展させていくのに必要な資質や能力であると考えているからである。（後略）

少し解説します…

著者の門脇厚司さんによると…

「社会性」 …… 「すでにある社会にうまく適応できること。」例えば、あいさつがしっかりできたり、お礼を言ったり感謝の気持ちを表現できたりなど、他者との円滑な人間関係を営むという社会的適応性を指している。



「社会力」 …… 社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資質や能力ということである。（いざれも本文中から説明部分を抜粋）

これからのお子たちに育みたい資質・能力

私たち大人が子供に指導する場面では、「あいさつや返事をちゃんとしなさい。」「周りの状況を見て行動しなさい。」など、どちらかというと社会性にかかわる指導が多かったような気がします。もちろん、これらの資質・能力は世の中の集団の中で生きていくためには不可欠なもので、とても大切な指導だと思います。

ただ、これからの時代、門脇氏の言う「社会力」を身に付けた人間を育てていく必要性が日に日に高まっていると感じています。「社会力」を考えるとき、頭に浮かぶのはグレタ・トゥンベリというスウェーデンの少女の行動です。2018年夏から「地球温暖化防止」を求めて授業をボイコットし、毎週金曜日に議会前での座り込みを一人で続けた少女です。ご存知の通り、この活動は今や全世界に広まり、若者達を中心とした大きな動きにつながっています。日本国内でも「自分たちが立ち上がらなければ！」と、この活動に賛同した大学生や高校生の活動が報じられています。まさに、自分たちは社会を変えていける存在であると自覚した行動だと思います。

GDPや五ヶ瀬祭りスタッフの経験を生かしたい

本校では中学3年生になるとGDP（五ヶ瀬デザインプロジェクト）として町づくりや人づくりに関する提言を行っています。また、昨年の夏は『五ヶ瀬祭り』のスタッフとして、代表生徒が夜の実行委員会に出席したり、祭り当日のゴミ管理を一手に任せられたりして自信をつけています。

最近の報道では選挙での若者の投票率が低いことなども話題にされています。「どうせ投票したって何も変わらない。」といった無力感があるとの指摘がありますが、それは若者達を責めるのではなく、若者達を育ててきた私たち大人こそが反省すべきことなのではないかと考えています。

冒頭に紹介した門脇氏の著書『子どもの社会力』のはじめにの結びには「**本書の内容が多くの読者によって理解され、そのことが若い世代に対する大人たちのかかわり方を変えることにつながることになれば、著者としてこれほど嬉しいことはない。**」と結ばれています。

社会の大きな変革の時に、私たち大人が将来を見据えた子供へのかかわりを考えれば、社会はもっと明るく素晴らしいものになっていくと思います。